

ゆかりの人々と風景に出会う

# 小説『安曇野』魅力を探る。

**安曇野**の名前を全国に広めたといわれる小説『安曇野』。当時の三田村（現在の堀金）出身の白井吉見さんが、病氣と闘いながら約10年かけて1974年に書き上げた全5部の長編大河小説です。

主な登場人物は、安曇野にゆかりのある実業家の相馬愛蔵・良（黒光）夫妻、彫刻家の萩原碌山、教育者の井口喜源治、社会運動家の木下尚江の5人です。舞台は、安曇野と相馬夫妻が始めた中村屋が中心で、明治から昭和にかけて日本の出来事とともに描かれています。

今月号ではその魅力に迫り、小説と関わりのある場所や小説を巡る市の取り組みを紹介します。



## 小説『安曇野』主要人物 相関図

### 夫婦・中村屋創業



相馬 愛蔵

白金村（現在の穂高）の養蚕農家だったが、上京して妻の良と「中村屋」を創業。文化・芸術活動にも尽力。



相馬 良（黒光）

夫の愛蔵と「中村屋」を創業。芸術家など文化人が集う中村屋サロンの中心的人物。

憧れ



萩原 守衛（碌山）

近代彫刻の先駆者。欧米で美術を学び、ロダンの「考える人」を見て彫刻家を志す。



木下 尚江

社会運動家・作家。新聞記者として足尾銅山鉍毒問題などで論陣を張り、日露戦争前に非戦を訴えた。



井口 喜源治

私塾の研成義塾を経営し、萩原碌山・清沢冽（ジャーナリスト）・東條たかし（実業家）らを育てた。

で1000人を超えており、そのほぼ全員が実在の人物です。そして、その多くの登場人物が政治家などではなく庶民という点が大きな特徴です。

また、小説では、「見渡すかぎり、紫雲英の花で埋もれ、そこかしこに土蔵の白壁がちらほらする」（『安曇野』第一部その三）などのように、当時の安曇野の風景を描写した部分も多くあります。

### 小説のテーマは？

作者の白井吉見自身は、「邂逅（出会い）と対話」をテーマにしている

と語っています。小説内では多くの人物による出会いと対話が繰り返されますが、白井吉見自身はその場にはいません。白井吉見は多くの資料を一念に調べ上げた上で、「この人物とこの人物がこういう時に会ったら、こんな話がはずむだろう」という追求が『安曇野』の意図であり、まずと解説しています。

### 小説の楽しみ方は？

小説は5部という膨大な分量ですが、主に第一・二部が明治、第三部が、第四・五部が昭和を舞台にしています。もちろん、第一部の1ページ目から読み始めても楽しめますが、興味のある時代が書かれた部分から読み始めても別の面白さがあります。また、主要人物の5人の中で最も長く登場する相馬良を軸に読み進めるのも、長編小説ならではの楽しみ方ではないでしょうか。

さらに、仲間と読むと、また違った視点の発見があります。市内では「安曇野」を読む会が定期的に活動しています。白井吉見文学館友の会では、『安曇野』に限らず、広く白井吉見文学館友の会にご参加ください。

同郷

同窓

## 「安曇野」を読む会

ゆかりの人物の素顔を読み解く



「安曇野」を読む会 代表 伊藤 正住さん

「安曇野」を読む会は、毎月第3火曜日の午後、堀金公民館で小説『安曇野』の朗読を行っています。朗読だけでなく、さまざまな資料を参考にしながら内容について意見交換しています。平成元年6月の発足以来、毎回1章ずつ読み進め、現在は3周目の第五部を読んでいます。

発足当時から所属し、現在は代表を務めている伊藤正住さん（堀金烏川）は、「小説『安曇野』にはとても多くの人物が登場します。読み進めていくと、名前だけしか聞いたことがなかった人物の素顔が分かります」と魅力を話します。

図・冊「安曇野」を読む会 伊藤正住さん ☎73・2351



## Interview

ゆかりの人物たちの  
出会いと対話  
を感じて楽しむ



白井吉見文学館 館長 平沢 重人

小説『安曇野』の魅力や楽しみ方を白井吉見文学館の平沢重人館長に聞きました。

小説の特徴やみどころを教えてください。

小説『安曇野』は、安曇野にゆかりのある5人の主要人物（左上参照）の生涯を中心に、明治30年代から戦後までにわたる近代日本を描いた長編小説です。全5部作で、400字詰め原稿用紙で約5600枚にも上ります。小説に登場する人物は総勢（〆）